

ひきこもり理解深める

保健センターで開かれ、約120人が講演や討論を通して現状や課題、地域でできる支援策などについて考えた。（谷本ころろ）

仕事や学校に行かず、他者ともほとんど交流しない「ひきこもり」について理解を深めるフォーラム（笠岡市主催）が2日、同市十一番町の市

笠岡でフォーラム



ライハートの丸山和子理事長が、「親の会」をつくり家族の支援も行っていると説明。県備中保健所井笠支所の森本健介保健師は、当事者から「引きこもっていた時間も大切だった」という言葉を受け

ひきこもりの現状や課題などについて理解を深めたフォーラム

た経験から「一人一人の過去を尊重してほしい」と話した。支援に先進的に取り組む総社市の活動の紹介もあった。

内閣府の2018年の調査によると、15歳以上の115万人以上がひきこもりの状態に

現状紹介や支援策討論

講演では、県立大保く、本人の気持ちや行要」とし、「当事者やあるとみられ、笠岡市健康福祉部の周防美智動を優先することが大家族が地域で孤立しなでは約400人と推子特任准教授がひきこ切」と訴えた。長期化、いよう気につけ、誰も計される。市は昨年5月、生活福祉課に相紹介した。最初から当で生活が困窮してしまりを目指してほしい「と呼び掛けた。

とどなく、時間と継地域でできる支援にパネルディスカッションでは、ひきこもり設置し、専門のスタッフを要すると説明したついで、「何とかしてあげきこもりについて正しいの若者らを支援する笠岡市のNPO法人エブる。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。